

**Citation:** Sequeira P, Fedorowicz Z, Nasser M, Pedrazzi V. Ultrasonic versus hand instrumentation for orthograde root canal treatment of permanent teeth. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 4. Art. No.: CD006384. DOI: 10.1002/14651858.CD006384.pub2.

**CRG名:** Oral Health

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 8 October 2008.

**Clib issue No.;** N/U: 2008 Issue 4; Update

**背景:** 根管の歯内療法、すなわち根管治療は頻度の高い歯科治療であり、不可逆性の歯髄炎により歯髄壊死となった歯におこなわれる。残存壊死組織除去と根管清掃および形成は、根管治療において重要なステップである。根管清掃・拡大の方法としては、手用器具や回転器具の使用や超音波器具または音波器具を用いる方法がある。

**目的:** このレビューの目的は、ヒト永久歯の根管治療において、手用器具や超音波器具を単独で使用した場合と、両方を併用した場合の相対的な臨床効果を比較すること。

**検索戦略:** Cochrane Oral Health Group's Trials Register, Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASE、およびLILACSを検索した。発表された、あるいは発表されていないさらなる臨床試験を検索するために、関連する論文の参考文献を検索した。使用言語によって制限を加えなかった。最新の電子検索は2007年の12月に行った。

**選択基準:** 根尖が完成し、内部吸収の所見がなく、根管治療を必要とする単根あるいは複根の永久歯を有する18才以上の被験者を対象としたランダム化比較試験が選択された。再治療を受けた歯の患者は除外された。

**データ収集と分析:** 選択基準を満たす研究のスクリーニングは、正副2通に独立して行われた。結果は、連続値には平均差を用い、また2値の結果にはリスク比を用いて、95%信頼区間にて固定効果モデルまたはランダム効果モデルとして表した。異質性については臨床的要素と方法に関する要素の両方を検討した。

**主な結果:** 選択基準をみたすランダム化比較試験は存在しなかった。

**レビューアの結論:** このレビューでは、通常の根管治療において超音波器具を単独で使用した場合と手用器具と併用した場合の効果について、発表された、または現在進行中のランダム化比較試験が存在しないことと、臨床に関する結果に基づいた質の高い根拠が存在しないことが明らかとなった。将来行われるランダム化比較試験は、臨床的な関連性だけでなく、患者を中心に考えた結果に焦点を当てて、根管治療における手用器具と超音波器具の併用効果をより詳しく評価すべきであろう。

(翻訳 佐野哲也・監訳 林美加子; JCOHR)

翻訳公開日: 09年2月20日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。